

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和3年1月19日

公表: 令和3年1月25日

事業所名 ほまれの家くすのき

		チェック項目	はい	いいえ	どちらともいえない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			・活動内容によってスペースを分ける、変えるなどして対応し、環境を整えている	
	2	職員の配置数は適切である	○			・指導員を多く配置し、目が行き渡るようにしている ・利用人数に応じて、指導員補助も配置して児童に目が行き届くようにしている	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている			○	・活動スペースには段差がない 玄関にスロープはないが職員が見守りを行っている	現状利用児童には問題ない為、今後の利用児童によって今後の検討を行っていく。保護者で補助が必要な方は、職員が補助をしているため、現状大きな問題はない。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している			○	・支援方法や内容について、定期的話し合いを行っている。	・非常勤職員は時間的に参加が難しい一会うことはできていなくても、LINE等を使い、内容の共有をさらに図っていく。できるだけ多くの職員が参加できるように時間等工夫して機会を増やしていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				令和3年度1月が初回の実施となり、今後も定期的実施し業務の改善に努める。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				令和3年1月中旬にHPIに公開をする
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○				今後、検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・研修カリキュラムを組んで学んでいる ・支援の研修動画カリキュラムを受講している	現在オンラインでも取り組める研修カリキュラムを職員間で行っている。全職員が同じレベルで対応できるようにさらに取り組みの精度を上げていく。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			・6か月に1回以上、必ず保護者と面談し、進捗状況の許攸と今後の課題について確認し、職員間で協議の上作成している	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している			○		スキルリストを職員間で共有して、標準化を図っていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			・職員間で相談を行い、不在の職員にもLINEを通じて共有相談して決めている ・職員間で情報交換したり、話し合ったりしてプログラムを立案している	職員によって負担の偏りがあるため、月1回の定例会でプログラム立案の会議を行う。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			・常に児童にとって必要なもの、興味を持てるもの、スキルを伸ばせるものを精査している ・季節のイベントなどを積極的に取り入れている	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			・土曜日に学習支援の強化を図っている	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			・個々のレベルに合わせて活動内容のレベルを変えてプログラムを行っている	集団活動の中でうまく参加できない児童に対して、個々にサポートを強化していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			・出勤後に一日の流れを確認するとともに、前日に職員用LINEで全体共有をしている。 ・前日に翌日のスケジュールや送迎予定等を共有していただけるため、事前に確認ができて助かります ・支援内容や役割分担を事前に把握している	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			・気になった点、良かった点などを話し合い、改善、向上につなげている ・その日に行われた支援の内容や状況を職員間で共有している	・送迎終了後、退勤の時間になってしまうなどの場合も翌日には共有する。出勤までに時間がある場合はLINEやメールなどで情報を共有する。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			・必ずデイ日誌や記録写真などを撮り、一日の出来事をまとめている。 ・日々の支援に関してここに記録を取っている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○				定期的な職員会議を増やし、職員間での相談の時間を増やしていく。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている			○		ガイドラインの精読を行い、精査していく。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			・現在コロナ禍の状況で訪問などに制限があるため、電話での情報共有を行っている。	コロナ終息後に会議を開催したい。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			・保護者用オフィシャルLINEなどを使い、こまめに情報交換や連絡をしている ・送迎時などに学校の担任の先生と密に連絡を取り合っている。		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			・現在医療的ケアの必要な児童がいない →現在医療的ケアが必要な子がおらず体制を整えていないが、今後発生して場合は改善していく。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている			○		現在体制は整っていないため、今後必要場合は随時対応していく。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		・該当児童なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			○		北部地域療育センターへの訪問、セミナーの依頼などを行う予定。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある			○		・基本的にはないが、公園利用時にたまにある →コロナ終息後、地域内の施設と交流を図っていく。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		今後必要に応じて検討していく。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				・送迎時や面談時に保護者と密に連絡を取り、共通認識を持っている	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○			
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			・契約時や面談時に説明している		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				保護者用オフィシャルLINEや電話連絡、送迎時に話し、必要であれば面談をしている	各家庭との悩み相談など今後さらに強化していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			○			コロナ終息後、実施予定。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				・有事の際は職員、保護者との情報共有や相談をし、迅速に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				・月に1回利用者向け通信を発行し、全体への周知を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	○				・鍵付き書庫での保管やSNS等の発信時は保護者に許可を得たもののみ扱っている。 ・秘密情報管理規定を策定し、管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				・オフィシャルLINEなどを通じ、こまめに情報を共有、相談している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		現在行事は行っていないが、自治会に入り	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			・保護者へ時期の節目に対策マニュアルを配布して周知している	新しい職員にも周知を徹底するため、マニュアルの見直し、改訂を行っている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			・月に1回以上避難訓練や災害に対するプログラムを行っている。 ・毎月避難訓練を行っている ・防災センター等の施設を訪れ体験学習をしている		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○					
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○					職員向けに分かりやすいマニュアルを作成し、再度周知していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				・利用児童のアレルギー一覧を作成し、職員に周知して行っている。	新しい職員にも周知を徹底するため、マニュアルの見直し、改訂を行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				・ヒヤリハット、事故報告に分別し、市役所等と相談している	